

中山間地域サポート推進事業
熊本県むらづくり課

くまもとの棚田からあなたへ
あなたから美しいむらへ



マスコットキャラクター
「ダンダン」



熊本の棚田特設サイト

「Tanada KUMAMOTO 棚田 熊本」

期間限定 2020年3月29日まで

<https://tanadakuma.wixsite.com/japan>

発行者：熊本県

所属：むらづくり課

発行年度：令和元年度(2019年度)

制作：Agrid(アグリッド)

〒862-8570 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

tel: 096-333-2415 fax: 096-385-5025

キリトリ
ポストカード
付き

棚田からの レターBOOK

写真：番所の棚田(熊本県山鹿市)

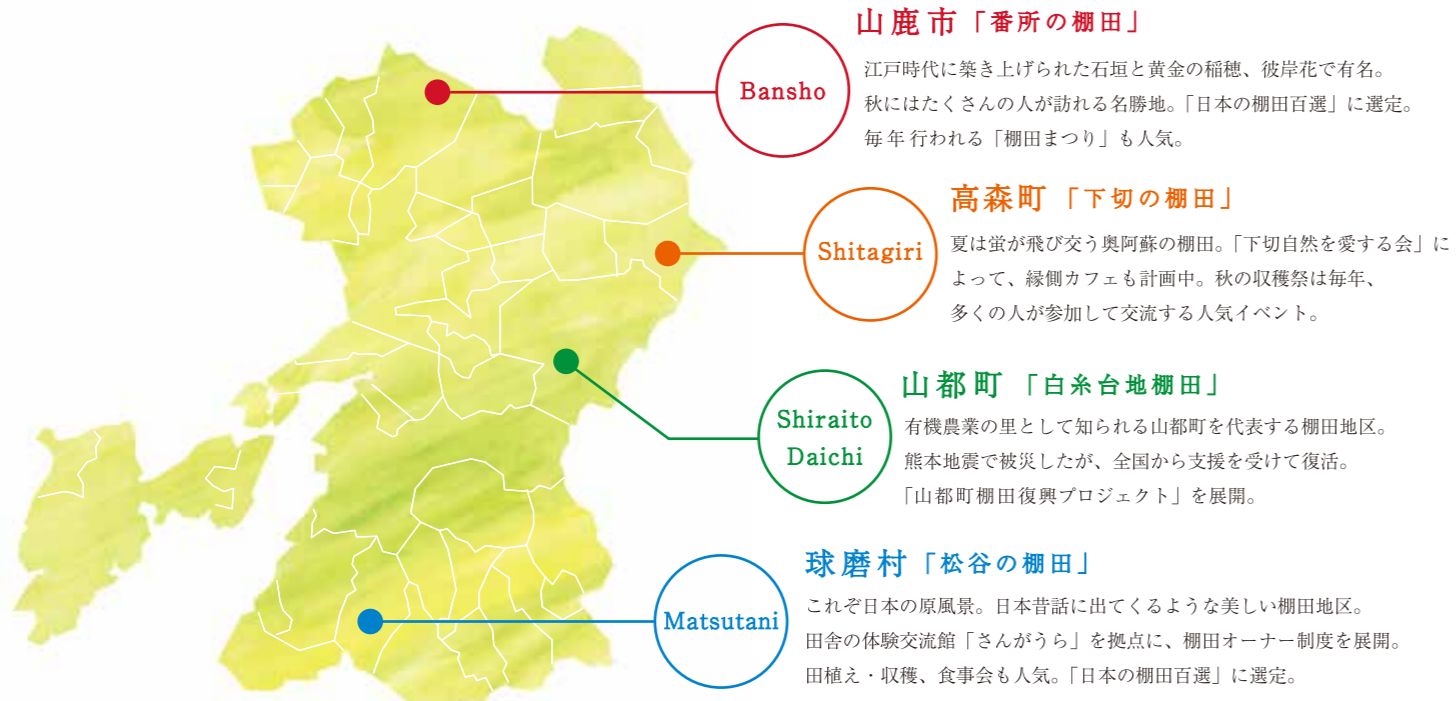
中山間地域サポート推進事業について
詳しくは、「ふるさと！応援ねっと」
HPをご覧ください。



INDEX

山鹿・番所棚田 …… P04 ~07
高森・下切棚田 …… P08 ~11
山都・白糸台地棚田 … P12 ~15
球磨・松谷棚田 …… P16 ~19
ポストカードページ …… P20 ~24
棚田4地区の観光ポイント… P25 ~27

くまもとの棚田から あなたへのメッセージ



山鹿・番所棚田

求む

未来後継者

江戸時代より築かれてきた

熊本を代表する棚田を次の世代へ。

秋、彼岸花の季節になると多くの人を訪れる、熊本きっての名勝地「番所の棚田」。江戸時代より石垣を築きあげ、受け継がれる棚田は今、未来へのステップをのぼるために後継者を探している。

堅牢な石垣、黄金の稲と彼岸花の絶景。

神様が描いたような棚田を、未来に伝えていきたい。

「日本の棚田百選」に認定されている「番所の棚田」は、熊本の棚田で最北端に位置し、菊池川の支流上内田川の最上流部、番所地区集落の斜面にあります。高低差 80m の急斜面には、江戸から明治にかけて作られた自然石による石垣の棚田が200枚ほどあり、毎年9月の半ばには黄金の稲穂の海に、深紅に染まる彼岸花が灯火のように燃え咲き、その絶景を見るために県内外から多くの人を訪れます。

古い石垣の上に1枚1枚、形が異なる美しい棚田が連なり、毎年訪れるファンも多い地区ですが、ここ数年で地区の高齢化率は55%と過半数を超え、農業者の平均年齢は70歳以上に。昔ながらの棚田を維持するために、今でも田植えの時期になるとあぜの内側をクワで剥ぎとり、水漏れがないように手作業であぜを塗ります。いわば、人力によって、日本の原風景とも呼べるこの棚田は守られているのです。

「保全・継承していくために」。2008年、地元住民により「番所棚田保全協議会」が発足しました。地域にたくさんの人を呼び込むために「棚田まつり」を実施。郷土料理や地元の農産物を販売し、毎年多くの人々が来訪する規模になりました。「これほどの景観はない」なんとか「守ってほしい」という声援のもと、新たな施策、後継者探しや農業者をサポートする仕組み作りが課題として認識されています。



江戸時代に作られた石垣



毎年秋には多くの人



彼岸花（9月半ば）

秋、番所の棚田を望む。黄金色の棚田と深紅の彼岸花のコントラストが目眩しい



守るだけでは、この景観は引き継げない。
新しい価値、活動を起こすことで次の一步を刻みたい。

「もっと地区に活気を生み出した
い」。地域をあげての新しい取組
もはまっています。そのひとつ
が「奥矢谷溪谷マザーネイチャー
きらり(以下略称:きらり)」での
展開です。番所棚田から、ほど近
いこのエリアを年間を通して人気
スポットにすることで、さらに地
元が活性化する方策を探っています。

森の中をウォータースライダーが
流れる「きらり」にはたくさんの
人が訪れ、地域に活気を呼び込
んでいます。毎年11月には、「きら
り里山学校」と題して、里山ウォ
ーキング、収穫、宿泊して里山ご
はんを楽しめる課外授業を開催。
見るだけの観光地から、参加型
の地域起こしへと力を入れています。

菊鹿町、嘱託職員の児玉礼一さん
は、毎年「棚田まつり」を地域の
人々、保全協議会と力を合わせて
開催してきました。番所地区に新
たな対価や価値を生み出す次のス
テップへと進めるための努力を、
一丸となって続けています。
そんな「番所の棚田」は今、さら
なる地域の力を求めています。



2019年きらり里山学校にて



里山学校で参加者に話す児玉礼一さん



棚田は道も整備されて歩きやすい



きらり組合長と組合女性メンバーたち



上空から見た番所の棚田 ひとつひとつの田の面積が異なる美しい形状を持つ



番所の棚田は、過去に数々の
賞を受賞してきました。
この熊本の宝を、未来へ。

「番所の棚田」は人々の営みにより、
今までに以下の数々の賞、認定を受
けています。1990年 第2回熊本農村
景観コンクール「農村景観大賞」、
1996年「新くまもと百選」入選、
1999年「日本の棚田百選」認定、
2007年「山鹿八景」選定、2009年
第21回くまもと景観賞「緑と水の景
観賞」、2013年「くまもと歴史50選」
認定、2014年「くまもと里モン賞」
など多数の実績があります。

高森・下切棚田

人生 大収穫

人生も農業も、楽しみたい。
集落の中堅はチャレンジャー。

人生中盤以降は、ゆったり、のんびり、自分らしく、生きていきたい。
仲間たちと自然を愛して、楽しく、農家を続ける。
カフェやレストランもいつか形にしたい。それが下切棚田のスタイル。

せせらぎの音、蛍が飛び交う夏。
奥阿蘇 下切には、豊かな自然と祭があります。

奥阿蘇のさらに奥。高森町、草部南部に位置する下切地区は、住戸11軒、23名の住民がひっそりと暮らす谷あいの小さな集落です。ほとんどの人が兼業農家。かつてJAや集落の事業所に務めていて、土日に家族で農業を行い、定年を契機にじっくりと農業を引き継いだというのが大きな特徴。

活動の中心になるのが「下切自然を愛する会」。地域を活性化しようと3カ年計画を立て、夏には蛍が飛び交い、秋には収穫祭を行う地域を、より多くの人に知ってもらおうと始めたのがきっかけでした。60代で定年後に農業収入を年金+月5万円から10万円と目標を立て取り組んできました。

そう、下切では、本格的に農業を引き継いで5年以内というチャレンジャーが中心。フットワークの軽さ、明るさが集落にはあります。3年目には月10万円を達成。今後は「縁側カフェ」をオープンさせる計画も。その布石として家々の表札が、全て立て看板の御札になっているところも新鮮でした。



表札は全て立て看板



祭もオープンな雰囲気



周囲には奥阿蘇の森



縁側カフェ。次に農家レストラン。
「下切ブランド」の起ち上げ。
自然を愛する人が集まる収穫祭。

人生中盤から農業を始めるという生き方を選ぶのもいいかもしれない。「下切自然を愛する会」の人たちの姿を見ていると不思議とそんな気になってきます。谷あいの棚田を手がけるのは大変なことだと思います。しかし、メンバーたちの足取りは軽く、第二の人生を、欲張らずに、できる範囲で取り組んでいこうという潔さを感じるのです。「なぜ、人生中盤から農業ができるのか。それはやはり、先人たちの作り上げてくれた棚田という財産、水路があるから。水がなければ、何もできません。そしてこの田畑を引き継げば、いつの日か子どもたちの老後の支えにもなるかもし

れない」と彼らは想像します。縁側カフェ、農家レストラン、下切ブランドの起ち上げ。芽はまだ小さいですが、ひとつひとつを大きな実で育てていこうという夢を持っています。そんな下切には、20年弱も続く甲斐好夫さん主催の収穫祭があります。祭は、町の子どもたちや、ボランティアで知り合った学生たち、海外からの研修生で賑わいます。23名の小さな集落に150人の人がやってきて、高森伝統の田楽を囲み、イノシシや芋、ヤマメや豆腐を焼き、恵みに感謝するのです。この日、集落では、老いも若きも集まる「約束の日」と呼ばれています。



収穫祭を主催する甲斐好夫さん



収穫祭では手作り料理が並ぶ



盛大な収穫祭。集落人口の数倍の人が集まり、テレビ局も取材



下切集落を上空から望む

下切自然を愛する会のメンバーたち。甲斐幸一さん 甲斐啓三さん 工藤徳義さん 甲斐照英さん



山都・白糸台地棚田

棚田

ふっかつ

美しい棚田、日本の原風景は、
農業者の、意志と努力で守られている。

有機農業の里としても知られ、多くの棚田を抱えている山都町。

中でも白糸台地周辺に広がる美しい棚田は、訪れた人を魅了してやまない。
熊本地震の被災、復興にむけて。女性リーダーたちのもと、力が結集した。

人や集落を元気づけるのは、やはり、人の力。
熊本地震という逆境をプラスに転じ、復活の道へ。

今から165年前に建造された通潤橋と用水路、その南に広がる棚田、白糸台地は2008年に国の重要文化的景観にも選定されています。受け継がれてきた農業と景観が、2016年の熊本地震によって被災。あれから3年半、2020年の放水再開をめざして、通潤橋は急ピッチで工事がすすめられています。

「東日本大震災の被災地、農家は、どうやって立ち向かったのか」。白糸・犬飼地区で活動してきた下田美鈴さんは、東北を視察。そこで、農地、故郷に戻りたくても戻れない多くの農業者の声を聞き、「泣き言を言っではいけない。もう一度、やるしかない」と奮い立たせられたと言います。

故郷の被災を知り、米国留学から帰国した後藤孝美さんも事務局としてサポートに加わり、メディアやSNSの力で多数のボランティアが集まりました。「全国から来た数百人もの手の力は、大きかった。人はやはり、最後は人の力によって、元気づけられる」。下田さんたちはこのことを実感しました。



通潤橋 (2019年10月撮影)



白糸台地棚田



たくさんボランティアの支援



女性と若者。この声を理解し、
助け合っていく地域。山都町の農業に、
新しい風が起きています。

今、日本では高齢化がすすみ、全国の農家で後継者不足が叫ばれています。こうした中で、山都町の犬飼地区では驚くべき事実がありました。それは18軒の民家のうち、20～40代前半の若手が14人もいるということ。20代の女性が5人もいて、そのうち2人は農学部出身、海外でも農業を研修で学んできた若手です。高齢化のすすむ地方の農業において、これは大きな可能性です。なぜ、ここには若手、女性が集まるのかを、大学教授や機関が調査したこともありました。その原動力のひとつは、女性や若い声を大切に、理解がある地域の男性たちの存在でした。

地区の根底にあるのは「明るく」「ためになる」「前向きに」という雰囲気と姿勢。「美しい場所、美しい村」というのは、最初からあるものではなく、そこにいる農業者と支え合い、理解する人によって、維持できるもの」という考え方がここには息づいています。

このような地域の基盤のもとに、熊本地震後、下田さんと後藤さんは「山都町棚田復興プロジェクト」というボランティア一体の活動を推進してきました。こうした活動の他に、夏に行う「生き物観察会」によって、都市部からも参加者、子どもたちがやってくるなど、地域に活気が生まれています。



事務局 後藤孝美(あつみ)さん



タガメ、ゲンゴロウなどが生息



毎年、白糸台地にはたくさんのボランティアの人々がやってきて支援



網で水辺をすくうと、多数の生物が。「生き物観察会」は大人気のイベントに

球磨・松谷棚田

生き残れ 故郷

このスケール感。そして急斜面。
日本の原風景を、あなたならどう守る？

左の写真を見てもわかるように、松谷の棚田はとてつもないスケール、急斜面である。その地形から、現代にあっても、機械を使った農業が困難。この天下の美田を、どう継承するか。求む解決策。

これぞ、日本の田舎。昔話に出てくるような
日本を代表する棚田は今、新たな施策を続けています。

まるで日本昔話の中の棚田。「日本の棚田百選」に選ばれ、NPO法人「日本で最も美しい村」連合に加盟。文化庁の「重要文化的景観」の冊子の表紙にもなるほど有名な、日本を代表する棚田のひとつが松谷です。その棚田が今、存亡の危機に直面していると聞いたならば、あなたはどのように思いますか。海拔230m、標高差は、なんと75m。この急斜面に43段105枚の棚田が松谷にはあります。井出(水路)の長さは3.3km。

260年以上前、先人たちが、命掛けでこの棚田を築いたと言われていています。大変な苦勞して開拓し、2世紀半も継承されてきた棚田ですが、耕作面積は4ヘクタールに過ぎません。日本の原風景、夢の棚田を何とか後世に残したい。球磨村直面していると聞いたならば、あなたはどのように思いますか。かつて自分が子どもの頃から見えてきた松谷の変わりゆく現状を知り、同施設の管理者として現実に立ち向かっています。

松谷では以前、棚田の景観保全を目的に「花いっぱい運動」という活動をしたことがありました。毎年ボランティア100名以上の人々が参加しました。一方で、地域・近県を対象に、棚田の稲刈り、竹灯籠のボランティアを募集しましたが、応募はゼロ。作業内容によって、こんなにも違うということに認識したと言います。しかし「故郷の棚田で米づくり」という思いを、小川さんたちは決して諦めてはいません。



行動あるのみ。「棚田オーナー制度」が始動。 みんなが松谷の棚田を体験し、味わい、分かち合う。

松谷の棚田は、新しいチャレンジも行っています。そのひとつが「棚田オーナー制度」。年会費15,000～20,000円で収穫した米20kgまたは10kg×4回と、農業体験、温泉入浴や昼食サービス、「棚田カード」といった特典付きの制度が人気を博し、毎年たくさんの家族連れや学生、都市からも人がやってくるようになりました。

今では28枚の棚田が復活。田植えや稲刈りの季節は、多くの人に参加するようになったのです。小川さんは言います。「遊休農地、耕作放棄地という言葉があります。これは農作物を耕作しなくなった田畑のこと。でも本当は、誰も放棄なんかしたくない。ここは耕作断念地。いや、断念したくない地です」。苦心に苦心を重ね、松谷

の棚田は、生き残りをかけたチャレンジを今日も続けています。今が松谷の棚田の正念場です。小川さんは大地の生き残りをかけ、情熱を注げる人です。同志を求めています。「棚田は米づくりをするのが一番だと思っています。しかし、それだけでは困難なことを実感しています。新たな発想も必要」と小川さんは考えています。



田舎の体験交流館「さんがうら」



全45段105枚の棚田



「さんがうら」施設長 小川聡さん



標高差は75mもある



棚田オーナー制度で田植えと収穫期には大賑わい



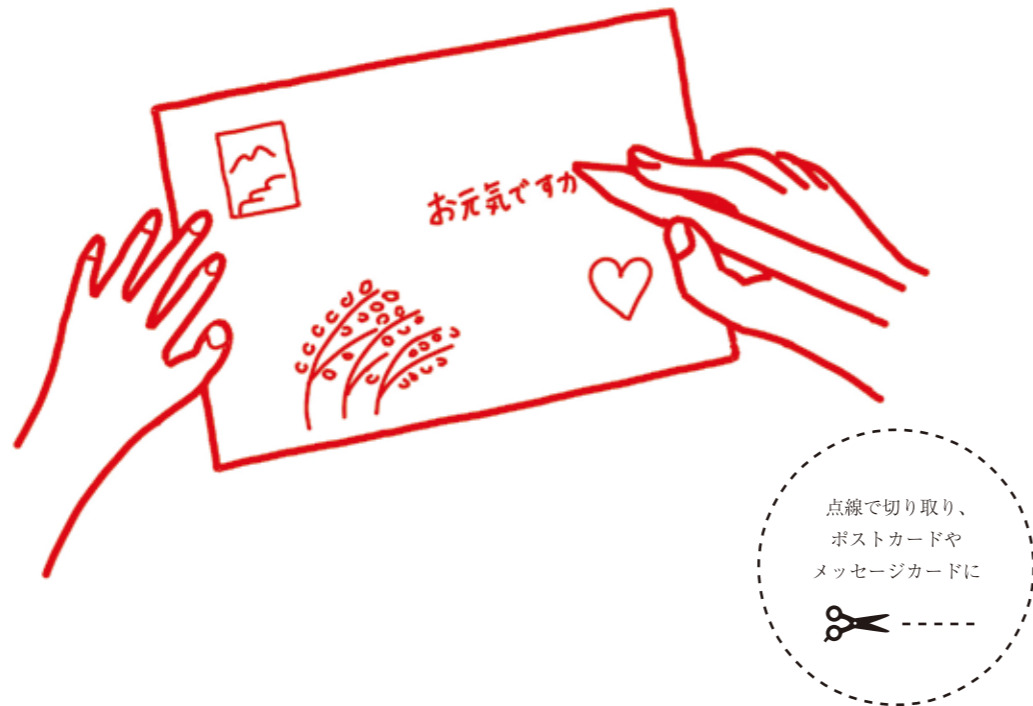
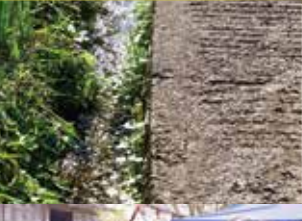
食事のおいしさも定評



家族で田舎体験をしてみませんか。
田舎の体験交流館「さんがうら」。
泊まることもできます。

松谷の棚田の最上部、丘の上に建つのが田舎の体験交流館「さんがうら」。かつて小学校だった学び舎を使って、「田舎体験・グリーンツーリズム」「棚田オーナー制度・農業体験」など、さまざまな活動を行っています。ちなみにここは宿泊も可能。大人1泊3,000円台から、子どもは2,000円台から泊まることができます。すぐ目の前に、松谷の棚田が広がる絶景のロケーションにあります。





くまもとの棚田 ポストカード。 旅先から、あの人へ送riませんか。

このページは切り取ればポストカードとして使えます。

旅先から、ご家庭から、あの人へ。

棚田の美しい写真にメッセージを添えて送ってください。

棚田の美しさが多くの人に届けられれば、熊本の農家も元気になります！

山鹿 番所棚田



高森 下切棚田





表の写真は熊本県 山鹿市菊鹿町「番所の棚田」(日本の棚田百選 選定)。
江戸時代に築かれた石垣と、秋の彼岸花が有名で、
熊本農村景観コンクール「農村景観大賞」も受賞しています。



表の写真は熊本県 高森町「下切の棚田」。山あいにある棚田からは
おいしいお米が取れ、秋の収穫祭にはたくさんの人が県内外から
参加して賑わいます。夏には蛍も飛び交う清らかな水の里です。

山鹿
番所棚田



田んぼの中には昔ながらの風景が
残されています。棚田というと
急傾斜を想像されますが、
道が整備されているので
歩きやすいのです。
あなたも散策にいらしてくださいね。

高森
下切棚田



集落には、海外からの実習研修生や
学生も参加して、農業体験し、
甲斐好夫さんと繋がりのある方々が
お祭を楽しんでいます。
焚き火を囲っておいしいものを
食べると、みんな仲良くなります。

山都 白糸台地 棚田



球磨 松谷棚田





表の写真は熊本県 山都町「白糸台地の棚田」。
北に架かる石橋・通潤橋（通潤用水）とともに国指定重要文化的景観に選定。
周辺は多様な水生生物が生息する里地里山地区として豊かな自然を残しています。



表の写真は熊本県 球磨村「松谷の棚田」（日本の棚田百選 選定）。
展望所からは、日本昔話に出てくるような風景を一望できます。
丘の上に立つ田舎の体験交流館「さんがうら」は宿泊も可能です。

山都
白糸台地



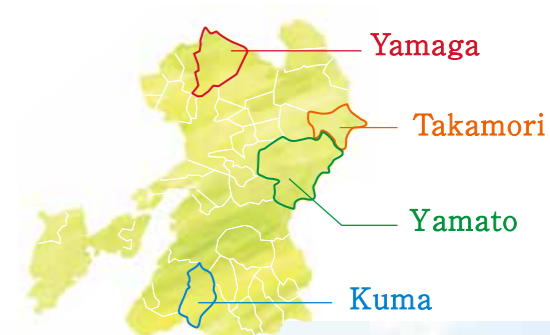
地震をきっかけに多くの
ボランティアの方に助けていただきました。
白糸台地の棚田は美しく、
おいしいお米が取れるので、
いらした方はファンになって、
何度も訪問いただいています。

球磨
松谷棚田



春と秋には棚田オーナーさんが農業体験、
「食事がおいしい」と喜んでくれます。
あなたも一度、松谷に来てみませんか。
そして地元のご飯を食べてみてください。
松谷の棚田ファン募集中です。

棚田4地区の 観光ポイント



球磨 松谷棚田



青井阿蘇神社 (国宝)

平安時代の806年創建。1200年以上の歴史を持っています。5棟の社殿群が熊本県初の国宝に指定。茅葺の社寺建造物としては全国で初めて国宝指定を受けています。手入れされた美しい茅葺屋根など、見どころも満載です。



球磨川ラフティング

日本三大急流に数えられる球磨川では、激流を下るアドベンチャー体験が人気です。1日コース、半日コース、バーベキューや温泉がセットになったツアーなど、各団体 & ガイドがさまざまなアトラクションを用意しています。



鍾乳洞「球泉洞」

1973年に発見された九州最大の鍾乳洞です。夏も天然のクーラーが効いたような涼しさで、洞内を歩きすむと次々と神秘的な空間が現れます。地球が3億年も時間をかけて作りあげてきた別世界を味わえます。

山鹿 番所棚田



八千代座

1910年に建設された国指定の重要文化財「八千代座」。昭和40年代には一度衰退を辿りましたが、その後復興。舞台、踊りなどの催し物が楽しめるほか、公演のない日には、贅を尽くした建築を見学することもできます。



山鹿灯籠まつり

山鹿温泉にある大宮神社の祭。毎年お盆に行われ、多くの観光客で賑わいます。頭に金灯籠を掲げた浴衣姿の女性たちが調べにのって舞い踊る「千人灯籠踊り」は壮観そのもの。花火も打ち上がります。



マザーネイチャーきらり

「奥矢谷溪谷マザーネイチャーきらり」は、大自然のもと、宿泊できるキャンプ場 & アトラクションエリア。90m級のローラースライダーや、5つのプールを結ぶウォータースライダーなど、子どもたちにも大人気です。



犬飼の大いちょう

犬飼地区の棚田に囲まれた丘の上にある樹齢700年以上の大イチョウ。公民館付近から石造りの家屋を眺めながら歩くと、水田が広がり、その右手より丘にのぼることができます。周辺は道が狭く駐車場がないため注意。



五老ヶ滝

矢部48滝の中で最大の瀑布。高さ50mから水が落下する眺めは壮観。現在は滝壺までの道は工事中ですが、釣り橋からその全体を一望できます。晴天時に、運が良ければ虹を見ることもできます。



円形分水公園

通潤橋の約6km上流部にある円形分水。水量を水田の面積に応じて公平に分水するためにつくられました。その昔、水田に引き込む水は、重要なものであり、水の紛争もありましたが、この円形分水によって解決されました。

山都 白糸台地 棚田



奥阿蘇物産館

ドライブの休憩に、高森のお土産の購入に、気軽に立ち寄れる物産館です。レストランも併設されているので、食事やお茶を楽しむこともでき、店内には地元で採れた野菜やお米、特産品がたくさん並びます。



湧水トンネル

全長2,055mのトンネル内は歩道が整備され、夏涼しく、冬は暖かいのが特徴。7月は七夕まつり、11月中旬～12月はクリスマスファンタジーが楽しい。一番奥にある「ウォーターパール」のマジックが見どころ。



木郷滝自然つりセンター

自然の溪流に放流されたヤマメやイワナ、ニジマスを釣ることができます。夏も涼しく、秋は紅葉が美しい景勝地。魚をその場で調理、食事もできます。釣り竿等は借りられるのでビギナーも手ぶらで楽しめます。

高森 下切棚田